

ホームステイは町内で

いま子どもたちは 森の学校

No.406

4

で、1994年の開校当初から続けている。年数回に分けて2、3、5年の全員が数人ずつ家庭に宿泊。1、4年生は農家に泊まり、農作業を体験する。

10月下旬の週末。3年の日高碧海さん(14)と2年の河下未歩さん(13)が、JA職員の本田圭郎さん(49)宅にホームステイした。河下さんは出発前、「緊張するけどすごく楽しみ」と笑顔を見せた。本田さんの妻克子さん(50)が学校に車で2人を迎え

に来てくれた。

夕方、夕飯のおにぎり作りを手伝った。本田さんの母、緑さん(74)に「あんたたち、上手じゃない」と声をかけられた。

本田さん宅は毎年、生徒を受け入れていて、緑さんは「子どもたちが来るのが楽しみで。たまには若い人の活気をもらわんとね」。焼き肉とおにぎりを食べながら、互いに自己紹介。「将来の夢はあるとね？」と圭郎さんが問うと、日高さんは

「飛行機の管制官になりたい。航空保安大学校に行きたいんで



す」。河下さんは「本にかかわる仕事がいい」と答えた。2人とも「本州の大学に行きたい」と言った。

「すっかりした夢を持つちよるね」。圭郎さんは、大学院生の長女と大学生の長男が一時期、東京で暮らしたことを話し、「一度は遠くに出てみるのもよかとよ」と勧めてくれた。食後もこたつを囲み、学校のことや圭郎さんの仕事のことな

ど、夜遅くまで話は尽きなかった。河下さんは「進路や仕事の話は将来役に立ちそう」。日高さんも「家に帰ったみたいになりラックスできる」。

翌日、圭郎さんに連れられ、地元のワイナリーへ。2人は先月、ここであつたお祭りに行きそびれた話をした。

「ほいじゃ、来年はうちに泊まって一緒に行こか」「いいんですか!？」大喜びする2人。

「いっちゃんが、いっちゃんが。ここが家だと思つて、またいつでも来ればいいが」(斉藤純江)

ホームステイ先の家族とおにぎりを作る日高碧海さん(左)と河下未歩さん(左から2人目) 〓宮崎県五ヶ瀬町